

南アフリカ 果汁用オレンジの需要は今後5年間は有望

[FreshPlaza](#) 2024年7月8日

ミッドナイト・バレンシアの出荷が始まると、南アフリカのオレンジ出荷シーズンは最高潮に達する。このオレンジは種が無い(または少ない)ため、極東やヨーロッパで人気が高まっている。このため、2023年の数字によると、ミッドナイト品種は南アフリカのバレンシア果樹園のほぼ40%を占めている。

ホドスブルート町(リンポポ州)に本拠を置くサンフェッド/ソレイユシトラス社のマネージングディレクターであるジャコブス・ヴァン・ステーデン氏は、「果汁用オレンジの価格が大変良い。買い手は我々のオレンジにプレミアム(割増金)を支払わなければならない。さもなければ、生産者はそのオレンジを果汁用に出荷することに何のリスクもないので、そちらに売ってしまう。私見では、また同僚とも話し合ってきたが、今後5年間は果汁用オレンジの需要が減少するとは考えていない」と述べている。

主な理由は、何千ヘクタールものブラジルのオレンジが恐ろしいカンキツグリーンング病の影響を受けており、その不足分がすぐには埋められないことである。そのため、国内北東部のホドスブルート、オーリグスタッド及びレツィテレに点在する農園の柑橘類を販売するヴァン・ステーデン氏は、「南アフリカの柑橘類、特に南アフリカ産のオレンジは、現在、非常に有利な立ち位置にある」と話す。(以下「」は同氏の発言)

オレンジ: あらゆるものに市場がある

果実のサイズ分布は2024年の柑橘類シーズンのテーマであり、ヴァン・ステーデン氏はバレンシアは小さい方だと認めつつ、今シーズンのグレープフルーツのサイズに比べれば大した問題ではないと指摘する。

「オレンジの良いところは、あらゆるものに市場があることだ。大玉は極東に、中玉はヨーロッパに、小玉はインドやバングラデシュに送ることができる。」

ただ、今のところヨーロッパに送られるものはあまりなく、今シーズンこれまでは南アフリカ産のオレンジはほとんどヨーロッパに送られていない。ヨーロッパのバイヤーが提示する価格は、生産者が国内の果汁業者から得られる価格よりも低い。「南アフリカ産オレンジは、8月、9月、10月にかけてよく売れるだろうが、今のところヨーロッパには、紅海を通れなかったエジプト産の果実がある。信じられないほどの量のオレンジがヨーロッパに押し込まれた。」

韓国が選択肢としてさらに魅力的に

ヴァン・ステーデン氏は、グレープフルーツの出荷シーズンは順調にスタートし、カナダと中国で好評だったと言う。

しかし、4、5週間前に加工グレードのグレープフルーツが登場し、グレープフルーツの価格が急激に下落した。グレープフルーツ業界は、加工グレードのグレープフルーツの輸出量を10%に制限するように自主規制しており、同氏は、価格が急激に下がるまでは、この点ではうまくいっていたと感じている。

韓国は、南アフリカ産グレープフルーツにかかる30%の輸入関税を、最初は6カ月間、その後通年で免除した。「今シーズンは信じられないほどの量のグレープフルーツを韓国に送った。関税の軽減は我々を大いに助けてくれた。」

今シーズンは小玉の果実が多かったため、輸出業者らはすぐに台湾とマレーシアにその果実を割り当てた。しかし、そのアプローチは後に問題になった。「これらの国は小さな果実市場なので、グレープフルーツが大量に入荷したことで、その後そこに送るのが大変難しくなった。」

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)